

所属 ビジネス学部		職名 教授	氏名 渡邊 聡	学位 名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了	兼任している研究科 ビジネス研究科
研究分野 環境資源経済学、環境配慮型社会			研究分野のキーワード 持続可能な社会経済、環境技術革新、企業の社会的責任（CSR）、持続可能な開発目標（SDGs）		
学歴					
2002年03月	金沢大学経済学部卒業				
2004年03月	名古屋大学大学院経済学研究科博士前期課程修了				
2010年03月	名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了				
職歴					
2010年04月	名古屋大学大学院環境学研究科研究員				
2012年04月	名古屋大学大学院経済学研究科助教				
2014年04月	鈴鹿国際大学（現・鈴鹿大学）国際人間科学部講師				
2017年04月	鈴鹿大学国際人間科学部准教授				
2018年04月	愛知淑徳大学ビジネス学部准教授				
2023年04月	愛知淑徳大学ビジネス学部教授				
研究活動					
著書(CD・DVD等を含む)・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当箇所・該当頁数
著書(CD・DVD等を含む)					
学術論文					
環境NPOが運営するチャリティショップの現状と課題ー名古屋の環境NPOへのインタビュー調査による検討ー	共著	2021年06月	南山大学 アカデミア 21	前田洋枝・渡邊聡	共同研究につき本人担当部分抽出不可能
Cost Calculation for Commercializing Production of Microalgae Biofuels and Foundation Business Model : Case Study of Durban-city in South Africa	単著	2023年03月	愛知淑徳大学論集. ビジネス学部・ビジネス研究科篇 19		105頁～120頁
学会発表					
Determinants of intentions to purchase and donate used goods in the context of charity shopping (Poster Presentation)	共同発表	2021年07月	ICP2020+(The 32th International Congress of Psychology)(ハイブリッド開催)		
チャリティショップにおける不用品寄付とリユース品購入の個人的規範の規定因（ポスター発表）	共同発表	2021年08月	日本社会心理学会第62回大会(オンライン開催)		
Developing Business Model by utilizing microalgae biomass, biofuel, and agri-mat	単独発表	2022年03月	Technology Transfer Workshop for the " Production of Biofuels Using Algal Biomass " Project (Protea Hotel in Durban, South Africa(participating via online))		
作品・制作等					
その他業績					
脱炭素に向けた経済転換と国際競争戦略-エシカル消費呼び込む官民連携が必要	単独	2021年04月	中部経済新聞、2021年4月1日付朝刊		オープンカレッジ
アフター・コロナの資本主義経済の	単独	2021年10月	中部経済新聞2021年10月8		オープンカレッジ

あり方は-グローバル型経済循環体制の意義と可能性			日朝刊		
社会課題解決における利他的行動の動機と意義とは-チャリティにおける地域での「場の創出」の必要性	単独	2022年03月	中部経済新聞2022年3月24日朝刊		オープンカレッジ
ソーシャルビジネス、社会的企業をどうとらえるべきか-サステナビリティに基づく多様な企業評価の必要性	単独	2022年11月	中部経済新聞2022年11月8日朝刊		オープンカレッジ
2030年以降を見据えた「豊かさ・幸せの経済学」-持続可能性と「幸福」を軸とした指標の必要性	単独	2023年05月	中部経済新聞2023年5月24日朝刊		オープンカレッジ
災害リスクと人口減少する地域のあり方は-コミュニティ再生通じた復興と地域づくりを	単独	2024年02月	中部経済新聞 2024年2月15日		オープンカレッジ
倫理的市場経済の形 - エシカル消費は市場経済を変革するかー	単独	2024年06月	中部経済新聞2024年6月20日		オープンカレッジ
「善意」に答えるビジネスは実現可能かー人々のエシカルをビジネスにつなげる課題	単独	2025年01月	中部経済新聞2025年1月22日		オープンカレッジ
循環経済は資本主義経済を変革するか-アップサイクルが生み出す新しい価値とは-	単独	2025年05月	中部経済新聞2025年5月22日		オープンカレッジ(中部経済新聞2025年5月22日付8面)
反ESG時代に持続可能なビジネスはあり得るか-可視化とナラティブによるサステナブルの実体化を-	単独	2025年10月	中部経済新聞2025年10月9日		オープンカレッジ(中部経済新聞2025年10月9日付8面)
資源制約の時代に企業は何を軸とするのか-循環とパーパスが生む企業経営のレジリエンス-	単独	2026年04月	中部経済新聞2026年4月15日		オープンカレッジ(中部経済新聞2026年4月15日付8面)
学会等における主な活動					
受賞					
所属学会					
2005年06月 ~ 現在	日本経済政策学会			2013年06月 ~ 現在 中部支部幹事 2016年06月 ~ 現在 理事 2019年06月 ~ 現在 国際会議プログラム委員 2023年10月 ~ 2023年12月 第55回中部地方大会（於・愛知淑徳大学）準備委員長 2025年05月 ~ 2025年11月 第24回国際会議（於・名古屋大学）運営委員	
2006年06月 ~ 現在	環境経済・政策学会				
2008年03月 ~ 現在	生活経済学会				
2014年05月 ~ 現在	国際開発学会			2014年10月 ~ 2018年09月 東海支部副会長 2018年10月 ~ 現在 東海支部幹事	
2021年07月 ~ 現在	日本チャリティショップネットワーク			2022年05月 ~ 現在 会計幹事	
社会活動					
2016年04月01日 ~ 2022年03月31日	JST / JICAの国際共同研究プロジェクト「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）」採択課題である「水処理システムと湿式抽出法による藻類の高効率燃料化の融合と実用化（代表・神田英輝名古屋大学大学院助教）のプロジェクトメンバーとして、微細藻類バイオ燃料と残渣を用いた肥料用マットを活用したビジネスモデルの構築に関する研究を行った。研究のほか、相手国（南アフリカ共和国）の研究者・行政担当者などに環境ビジネスに関する考え方を共有するためのハンドブックを作成、ビジネスモデルの構築の基礎と現地人材育成に活用されている。				
2019年09月 ~ 2023年03月	豊田市中山間地域での地域経済循環を進める事業について、株式会社三河の山里コミュニティパワー（以下、「MYパワー」）に対し地域経済循環の推計について協働で進めた。関連するデータの収集ならびに分析、実地調査のための調査票準備などを関係者と進めた。これらの内容は、「2019年度地域経済循環分析プロジェクト報告書」（平成31年度環境省補助事業「地域低炭素化推進事業体設置モデル事業」採択事業報告書）の一部としてまとめられた。現在、トヨタ財団助成採択事業として、名古屋大学と共同で地域経済循環のための家計調査等を行った。				
2022年09月 ~ 2025年09月	「Bilingual Internship Domestic」株式会社ブライセン（IT企業）との連携 ビジネス学部グローバルビジネス専攻（専修）では、学びの集大成として「Bilingual Internship Overseas」・「Bilingual Internship Domestic」を開講し、国内外のグローバル企業でのインターンシップ（就業体験）を実施しており、東京に拠点を置く				

	株式会社プライセン（ソフトウェア・システム開発など）と連携し、3週間のインターンシップ研修に学生を派遣している。株式会社プライセンは海外拠点を持ち、オフショア開発に力を入れていることから、外国籍の従業員が多く、グローバル人材の活用に積極的な企業である。多国籍な従業員が働く東京本社において、商品知識の理解や営業プレゼンテーションに取り組んだ。	
2023年04月 ～ 2024年09月	「Bilingual Internship Domestic」多摩信用金庫との連携 ビジネス学部グローバルビジネス専攻（専修）では、学びの集大成として「Bilingual Internship Overseas」・「Bilingual Internship Domestic」を開講し、国内外のグローバル企業でのインターンシップ（就業体験）を実施しており、東京・立川市に本店を置く多摩信用金庫と連携し、3週間のインターンシップ研修に学生を派遣した。輸出入決済、海外企業とのマッチングなどから多摩地域の取引先企業を支援している海外事業支援部をはじめとして、資金証券部や価値創造事業部などにおいて研修に参加し、金融機関の業務を幅広く知る機会となった。	
2025年04月 ～ 現在	特定非営利活動法人G-netの呼びかけにより、三重大学人文学部の洪教授と愛知東邦大学経営学部の手嶋教授と連携し、学生の地域企業との連携事業に関する月例オンライン勉強会を開催している。その中で地域企業経営者による勉強会への大学教員への登壇や産学連携事業に向けた議論などを行っている	
教育活動		
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
「Global Economy Elementary」におけるパワーポイント講義資料などを用いた授業展開と英語による経済知識の定着に向けた取り組み	2018年09月24日 ～ 2024年01月	「Global Economy Elementary」（1年次配当）において、国際経済の基礎的な知識を英語で習得するため、パワーポイントを使った講義資料を作成し、それを用いた講義を行っている。特に、学生の集中力を持続させるため、ポイントは虫食いになっており、講義展開を読みやすいよう構成している。また、講義の後半は講義内容に関するReview Quizとして、経済の専門用語の英語能力を定着させるための取り組みを行っている。
「Global Business Elementary」におけるパワーポイント講義資料などを用いた授業展開と英語によるビジネス知識の定着のための取り組み	2018年09月27日 ～ 現在	「Global Business Elementary」（2年次配当）において、国際経営の基礎的な知識を英語で習得するため、パワーポイントを使った講義資料を作成し、それを用いた講義を行っている。特に、学生の集中力を持続させるため、ポイントは虫食いになっており、講義展開を読みやすいよう構成している。また、講義の後半は講義内容に関するReview Quizとして、経営・ビジネスの専門用語の英語能力を定着させるための取り組みを行っている。
「ビジネス・エコノミクス / 経済学入門」におけるパワーポイント講義資料などを用いた授業展開と双方向型授業への取り組み	2021年04月12日 ～ 現在	「ビジネス・エコノミクス / 経済学入門」（1年次配当）において、ミクロ経済学ならびにマクロ経済学の基礎的な知識を習得するため、パワーポイントを使った講義資料を作成し、それを用いた講義を行っている。特に、学生の集中力を持続させるため、ポイントは虫食いになっており、講義展開を読みやすいよう構成している。コロナ禍においては、対面授業に戻った後も教室での講義をビデオで録画し、Teamsで配信することで、学生の復習と欠席者への対応が行えるように配慮した。同時に、講義動画を教員が確認することで、授業進行や内容面での改善に活用した。さらには、毎回の講義で授業内課題に取り組むことで学生の授業内容の定着をはかった。課題用紙に書かれた質問やコメントに対し、教員からの回答や返答を授業のTeamsページに掲載することで、双方向授業を展開することを企図している。
「サステイナブル・ビジネス」におけるパワーポイントを使った授業実践	2023年04月 ～ 現在	「サステイナブル・ビジネス」（3年次配当）において、SDGsなどのサステナビリティ（持続可能性）の課題とビジネスとの関係に関する理論と実践を学修するため、パワーポイントを使った講義資料を作成し、それを用いた講義を行っている。特に、学生の集中力を持続させるため、ポイントは虫食いになっており、講義展開を読みやすいよう構成している。さらには、毎回の講義で授業内課題に取り組むことで学生の授業内容の定着をはかった。課題用紙に書かれた質問やコメントに対し、教員からの回答や返答を授業のTeamsページに掲載することで、双方向授業を展開することを企図している。
サステイナブル・ビジネスにおけるソーシャルビジネスを実践例としての地域企業の経営者の登壇	2024年04月 ～ 現在	ソーシャルビジネスや社会的企業の実践例として、授業の1回は地域企業の経営者を招いた講演会を開催している。企業における取り組み例を紹介いただくほか、授業内で経営者の課題を出してもらい、受講生はグループでその課題に答える提案を行って経営者の方からコメントをいただくといった、双方向性を意識した授業内容としている。
「日本経済事情」におけるパワーポイント講義資料などを用いた授業展開と新聞記事等を用いた実践的体系理解への取り組み	2024年09月 ～ 現在	「日本経済事情」（1年次配当）において、マクロ経済ならびに日本経済の基礎的な知識を習得するため、パワーポイントを使った講義資料を作成し、それを用いた講義を行っている。特に、学生の集中力を持続させるため、ポイントは虫食いになっており、講義展開を読みやすいよう構成している。また、講義の後半は新聞記事などを読み合わせたうえで、講義で説明した内容を使って説明させる考察レポートという課題を課し、実践的な知識と論理的な思考を習得させるような講義展開となっている。
ゼミナール ・ における企業のフィールドワークの実施と調査報告の公表	2025年04月 ～ 現在	地域のソーシャルビジネスに取り組んでいる企業へフィールドワークを行い、経営者ならびに従業員から学生が直接話を伺い、ソーシャルビジネスの実体化とパーパス経営実現に向けた社内体制づくりの課題などを調査している。調査にあたっては事前の調査票の作成や実際のインタビュー調査、調査後にウェブサイトへ掲載する記事の作成などを学生主体で行った。また、他大学とのインナーゼミで同様の調査を行った他大学の学生や企業関係者の方との意見交換を実施した。

2 作成した教科書、教材、参考書		
「日本経済事情」におけるパワーポイント講義資料	2018年04月17日 ~ 現在	マクロ経済ならびに日本経済の基礎的な知識を習得するため、パワーポイントを使った講義資料を作成している。特に、学生の集中力を持続させるため、ポイントは虫食いになっており、講義展開を読みやすいよう構成している。また、国民経済計算等の統計資料をあわせて使用し、データリテラシーの涵養と最新の経済情勢の知識の習得を目的としている。
「Global Economy Elementary」におけるパワーポイント講義資料	2018年09月24日 ~ 現在	「Global Economy Elementary」（1年次配当）において、国際経済の基礎的な知識を英語で習得するため、パワーポイントを使った講義資料を作成し、それをを用いた講義を行っている。特に、学生の集中力を持続させるため、ポイントは虫食いになっており、講義展開を読みやすいよう構成している。また、World Bank、IMF、WTO等の統計データや公的資料を使い、最新の国際経済事情に対する知識とデータリテラシーの涵養を目指している。
「Global Business Elementary」におけるパワーポイント講義資料	2018年09月27日 ~ 現在	「Global Business Elementary」（2年次配当）において、国際経営の基礎的な知識を英語で習得するため、パワーポイントを使った講義資料を作成し、それをを用いた講義を行っている。特に、学生の集中力を持続させるため、ポイントは虫食いになっており、講義展開を読みやすいよう構成している。また、グローバルビジネスに関する新聞記事やTV番組を資料として使い、最新のグローバルビジネス事情に関しての知識の涵養を目指している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
企業フィールドワークにおける調査とその背景	2026年02月19日	2年ゼミで行った地域企業へのフィールドワークについて、他大学ゼミとの合同の成果報告会「ゼミ横断型企業フィールドワーク成果報告会（主催NPO法人G-net、於・愛知淑徳大学星が丘キャンパス）」内で、調査における教育効果の狙いと意義、課題などについて解説した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		
5 大学運営		
ビジネス学部グローバルビジネス専攻主任	2020年04月 ~ 2025年03月	
ビジネス学部学生生活委員長	2021年04月 ~ 2023年03月	
ビジネス学部教務委員長	2023年04月 ~ 2024年03月	
ビジネス研究科長	2025年04月 ~ 現在	
ビジネス学部教務委員会	2026年04月 ~ 現在	
V 資格・免許、特許等		
資格・免許		
特許等		